

1

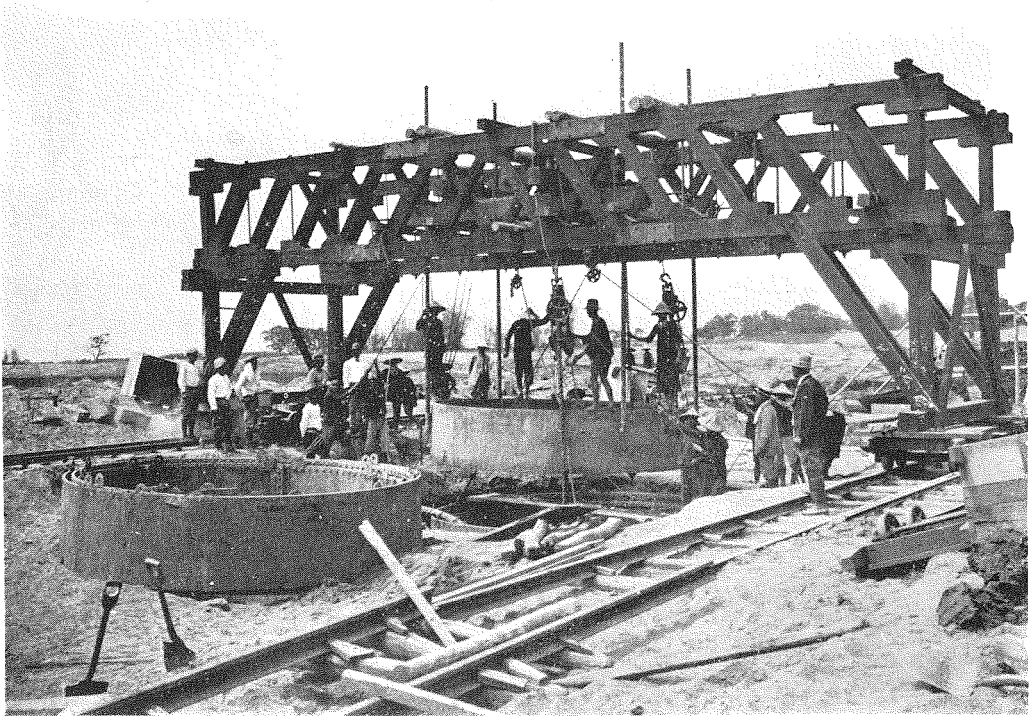
□公共埤圳嘉南大圳組合の大灌漑工事□

— その二水路篇 —

嘉南大圳組合の大灌漑工事に關しては、曩に本誌第一卷第四號に其概況を紹介し、本年八月、河川工事特輯號に於てまたその竣成後の状況を、百瀬泰次郎、八田與一、阿部貞壽の諸氏の好意にて掲載したが、専ら大土堰堤並に貯水池の工事に關するものだったので、茲に水路篇として送水路並に排水路工事の主要なるものを掲げることとした。(次號完結)

(1) サイホンの特殊敷設工事

南幹支線第二工區第一號サイホンコンクリートパイプ、管厚5吋、内徑4.6呎長47呎のもの11本を、河底下10尺の深さに敷設するもの寫眞は昭和4年4月3日の工事狀況なり。



2

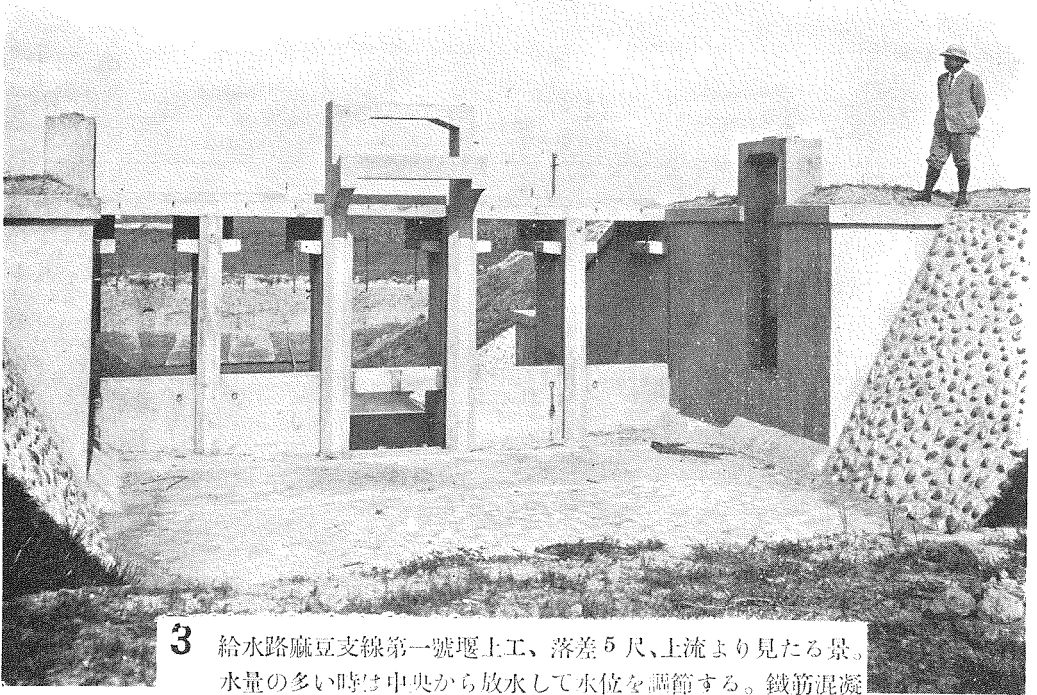
工事方法は先づ中心線位置に型枠を据え付け、混凝土管を仕上げたる後、上部の型枠を外し、下部型枠は地盤掘下げに依り順次取り外し、管底の地盤を一部宛掘り下げ所定の深さに沈下せしむるのである。

普通この様な仕事をする時は矢板を使用してから河中を掘鑿するものだが、本場所は非常に不便な所で材料の搬入が困難であり且つ豫算の関係もあるので斯る工法に依つたのである。掘つた兩法は三割位にした。土質は大部分砂。斯様な工事は餘り例がないから、請負に附すると高く見積られる恐れがあるので全部直營にて施工した

此種工法は、臺灣、朝鮮等の如く乾燥期が定つて、其間全然降雨のない處でないと、損害を被る場合がある。

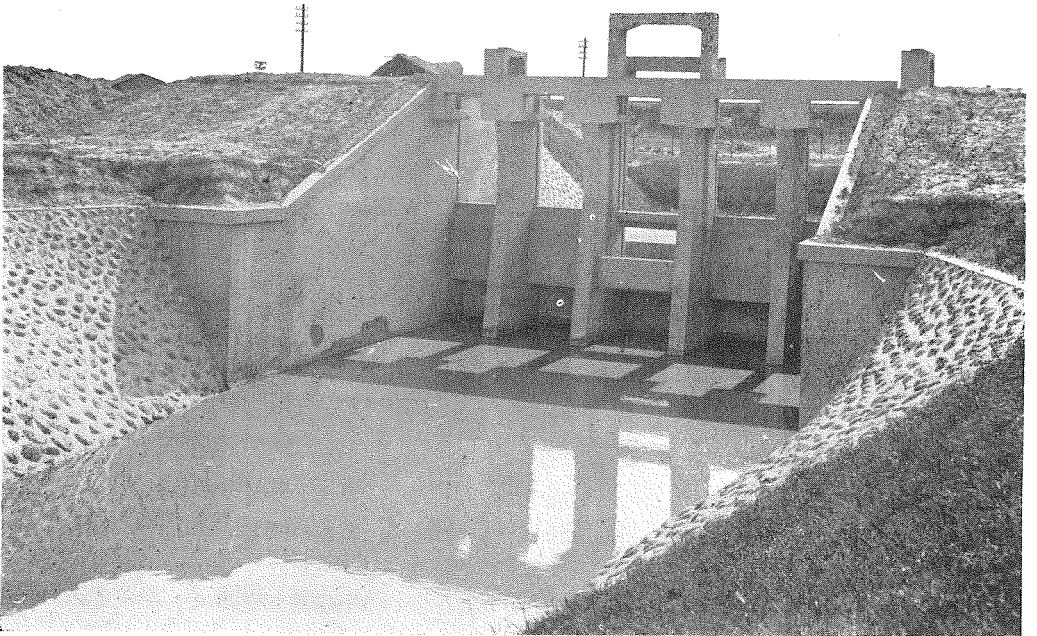
(2) サイホンの基礎工事

混凝土管受臺は管と管との継目に一ヶ所宛設けた。構造は混凝土であるが、矢板型枠等の費用を可成節約する爲に、鐵枠の型を順次荷をかけ乍ら沈下せしめ、所定の位置に達したなら其中に型枠を組み立て受臺混凝土を施工するのであるが、鐵枠の型は基礎が完成したなら引揚げられる様装置してある。寫眞はサイホン中心線を跨ぐゴライヤス・クレーンで鐵枠を引き揚げてる處。



3 給水路麻豆支線第一號堰土工、落差5尺、上流より見たる景。水量の多い時は中央から放水して水位を調節する。鉄筋混凝土造。

4 上圖に同じ。下流より見たる景。





5 給水路麻豆支線第二號落水工並に堰上工附屬水橋、幅11尺、長176尺、高8尺。

6 上圖に同じ。水橋の正面。

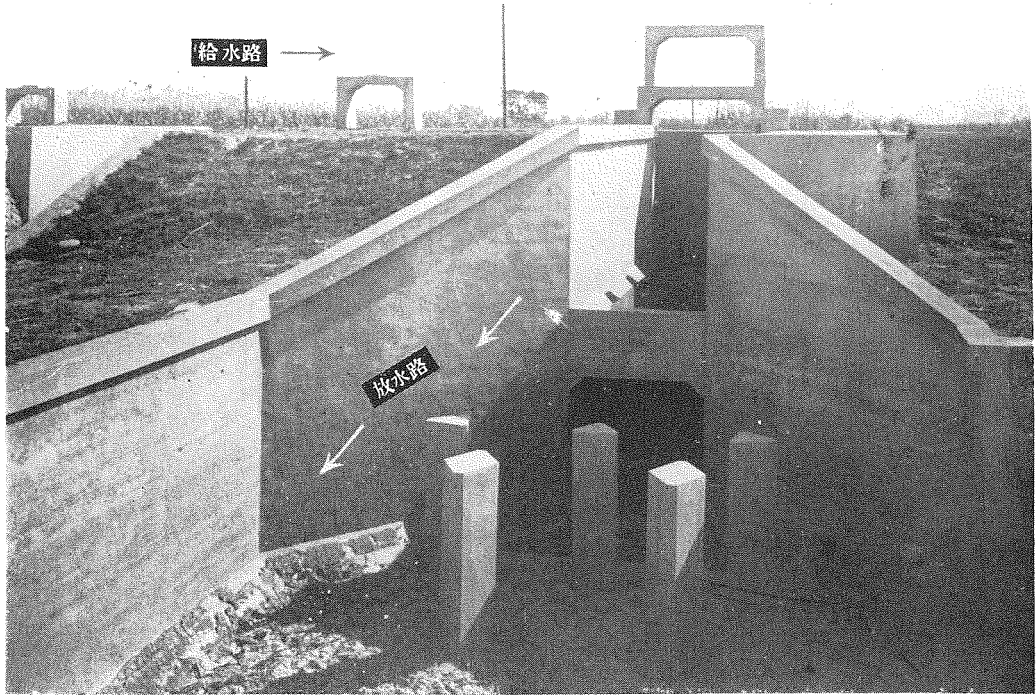




7 將軍溪終點、渡船場附近より下流を望む景。自然狀態の河流の景色にして、左側の二線け堤上が自然の道路となり、車輪の轍が喰込みたるもの。

8 北幹線朴子溪水橋、全長616尺、水樋は鋼板で造り徑8尺×6.5尺、流量76個、南岸上流より見たる景。構造は、鋼製結構橋。





9 學甲分線第一區終點堰上門及附屬放水門 五本の混凝土の柱は水流を緩和するもので上流の三本はスプリットピアア、下流の二本はバツフル・ピアアである。向側は給水路にして其餘水を此方側に落すものである。

10 給水路善化支線胡厝寮分水門を下流より望む。臺灣農夫が甘蔗(砂糖キビ)を積み込んだ荷車を水牛に牽かし積込場(製糖會社支線鐵道の敷設せる)に運搬しつつある處、臺灣田園の一風景。

